

# 公民館を中心とした住民主体の 協働のまちづくりを調査

文教福祉常任委員長 中里 知恵子

当委員会は、平成20年11月4日長野県松本市芳川公民館を視察した。

## 調査項目

- ①松本市における生涯学習の基本方針
- ②芳川公民館の事業

## 調査経過

松本市は、中央公民館と32の地区公民館がある。視察した芳川地区は松本市の南端に位置し、人口は約1万6000人である。市では2番目に大きな地区であり、出張所を兼ねた公民館が事業を行っている。公民館の事業目的は、

- ①住民活動をつなげるなど住民同士顔の見える関係づくり
- ②地域課題解決への取り組み

である。家庭教育学級「であい学級」や「芳川歴史探検」など、19あまりの事業と45の文化サークルが活動している。

これらの事業は、運営委員会（20人構成）や文化・図書視聴覚委員会、館報編集委員会、体育委員会の5委員会によって運営されている。

また、公民館のほかに「地区福祉ひろば（平成7年開設）」がある。健康相談や健康教室などが行われており、平成19年度は9289人の利用者があった。

## 考察

松本市では、公民館事業は生涯学習の一環であり、学校教育も生涯学習のなかに含まれている。市の基本構想のもとに公民館活動が行われており、防火訓練や認知症の人たちの「見守り」や、町会内に保健師が出張し、出前健康診断を行うなど、地域の課題に取り組んでいる。

住民の自治が公民館活動にあり、住民主体で行う協働の町づくりの原型を見ることができた意義は大きい。



公民館事業の先進地である芳川公民館での研修



国宝 松本城